文化財だより ふるさと再発見

⑧ 鶴里 白鳥神社の祭礼

鶴里町柿野の白鳥神社は、おおむね十世紀ごろの創建といわれていますが、詳しくは分かりません。祭礼は、毎年十月の第一日曜日、午後一時三十分から始められます。

広々とした境内の端の大鳥居から、区長を先導に神主、神楽舞姫、神楽囃子、町役員、子ども獅子の子どもたちの順に祭列を組み、中央の参道を拝殿に進みます。一通りの神事が終わったあと、神前の四方に竹を立て、しめなわを張った中の舞台で、六人の舞姫が神楽を奉納します。境内では、獅子頭をおのおの先にして、五町内の子どもたちが、七回・五回・三回と広い馬場を駆け回ります。先導の当番町内では、雌獅子も駆けます。このとき、花馬一頭とみこしが獅子のあとを回ります。

祭礼は、江戸時代から伝えられ、続いています。昔は、境内の舞台で、狂言や村芝居まで奉納されていました。明治時代から始められたとされる花馬は、五頭が奉納されていましたが、時代とともに行事も変化し、簡素化されてきました。農耕に牛馬が使用されなくなって、花馬の奉納はほとんどすたれました。ここでは、四・五年前に復活させ、馬飾りが残っていた三町内が交代で奉納するようになりました。境内には出店も並び、子ども獅子の子ども、親・町の人など大勢の見物客でにぎわい、昔懐かしい鎮守の森の祭り風景でした。

教育夢発信

西陵中学校「地域講師に学ぶ」

中学校では、選択教科の学習があります。この選択教科の学習では、興味・関心のあるものを発展的に学習したり、今までの学習を補充したりしています。本校では、この選択教科の一部で、地域の方に講師として指導してもらっています。

琴に挑戦！

十月九日の昼休み、本校の中庭で琴のコンサートが催されました。このコンサートは、選択音楽で、琴を学習した生徒が自主的に発表したものです。選択音楽（琴）は、地域に在住の伊藤イチ先生に習っています。発表した生徒は、「すごく緊張したけど、いい思い出ができた」と話していました。

普段、琴や尺八など、和楽器に慣れ親しむことがない生徒たち。地域の先生のおかげで、貴重な体験をしています。

陶芸に挑戦！

選択美術（陶芸）では、地域に在住の猪倉高志先生に習っています。土岐市といえば美濃焼。でも、粘土に親しむ機会はあまりありません。猪倉先生の指導のもと、粘土の扱いに慣れ親しみ、茶碗づくりだけでなく、広く造形的な器もつくっています。つくった作品は、本校の電気窯で、素焼き・本焼きを行い、毎年、素晴らしい作品が出来上がっています。